PRESS RELEASE

SANDEN
INNOVATING COMFORT

2026年8月20日
サンデン株式会社

長沼工場に自家消費型太陽光発電設備を導入
― 年間約135万kWhを発電し、CO_2排出量を年間約560トン削減へ ―

● 2039年カーボンニュートラル達成に向け、再生可能エネルギー活用を拡大

サンデン株式会社（本社：群馬県伊勢崎市、以下「当社」）は、長沼工場（群馬県伊勢崎市）に自家消費型太陽光発電設備を導入し、2026年4月より再生可能エネルギーの利用を開始しました。

本設備は、株式会社永輝商事とのオンサイトPPA（Power Purchase Agreement：発電事業者が需要家の敷地内に太陽光発電設備を設置し、発電した電力を需要家が購入する仕組み）により導入したものです。発電した電力は長沼工場で自家消費し、初期投資を抑えながら長期にわたり安定的に再生可能エネルギーを活用することが可能となります。

年間発電量は約135万kWhを見込み、長沼工場で使用する電力の約12%を賄う予定です。また、本設備の導入により、同工場のCO_2排出量は年間約560トン削減される見込みであり、2025年実績比で約11%の減少に相当すると試算しています。これにより、温室効果ガス排出量の削減に加え、電力価格変動リスクの影響を一定程度抑制し、中長期的なエネルギーコストの安定化にも寄与することが期待されます。

■ 導入効果

項目	内容
年間発電量	約135万kWh※1
工場使用電力量比率	約12%
CO_2削減量	年間約560トン
CO_2削減率	約11%※2
契約期間	20年間

※1 年間発電量約 135 万 kWh は、一般家庭約 340 世帯分の年間使用電力量に相当します（1 世帯当たり年間約 4,000kWh として試算）。
※2 2025 年の長沼工場 CO_2排出量（約 5,000t-CO_2）との比較。

● 2039年カーボンニュートラル達成に向けた取り組み

サンデンは、自動車空調システムおよびコンプレッサー事業を通じたモビリティの環境負荷低減に加え、生産活動における温室効果ガス排出量の削減にも取り組んでいます。

当社グループは2039年のカーボンニュートラル達成を目標に掲げており、本設備の導入はその実現に向けた具体的な施策の一つです。長沼工場における再生可能エネルギー利用の拡大を通じて、脱炭素化に向けた取り組みを着実に推進してまいります。

● 持続可能な供給体制の構築と脱炭素経営の推進

近年、自動車業界ではサプライチェーン全体での温室効果ガス排出量削減への対応が重要性を増しており、環境対応は企業競争力を支える重要な経営課題となっています。

当社は、本設備の導入を通じて、お客様から求められる環境対応の強化と持続可能な供給体制の構築を進めます。また、系統電力への依存度を一定程度低減することで、電力価格変動の影響抑制や中長期的なエネルギーコストの安定化に寄与することを目指します。

● 今後の展望

サンデンは今後も、再生可能エネルギーの活用拡大、省エネルギー活動の推進、環境負荷の低い製品および技術開発を進めてまいります。こうした取り組みを通じて、環境負荷低減と持続可能な事業運営の両立を図り、持続可能なモビリティ社会の実現と中長期的な企業価値向上を目指してまいります。

[参考リンク] 株式会社永輝商事 https://www.eikishoji.co.jp/

本件に関するお問い合わせ
サンデン株式会社　総務本部　広報･IR 担当
Tel：03-5828-5582　Email：sdhd.prcsr.jp@g-sanden.com　Web：https://www.sanden.co.jp/